

論文式試験問題集
[民法総則]

[民法総則]

次の文章を読んで、後記の〔設問〕に答えなさい。ただし回答日時点で施行されている民法が適用されることを前提とする。

【事実】

1. 不動産賃貸業を営むAは、その亡妻Bとの間に長男Cをもうけていた。Cは、平成14年(2002年)9月1日生まれであり、令和2年(2020年)8月の時点で満17歳であった。
2. Cは、Bの所有していた甲土地をBからの相続及び遺産分割により単独で取得していた。甲土地は、更地で、Cの登記名義とされていたが、Cの親権者であるAが公租公課の支払を含め甲土地の管理を行っていた。
3. 令和2年8月1日、Aは、自らの遊興を原因とする1000万円を超える借金の返済に窮していたことから、C所有の甲土地を自らが管理していることを奇貨として、甲土地をCの承諾を得ずに売却し、その代金を自己の借金の返済に充てようと考えた。
4. 令和2年8月10日、Aは、Cの代理人として、個人で飲食店を営む知人Dとの間で、甲土地を600万円で売却する契約を締結し、CからDへの所有権移転登記を行うことで合意した。
5. 令和2年8月15日、Dは、Aに対し甲土地の代金として600万円を支払い、CからDへの甲土地の所有権移転登記がされた。Aは、Dから受領した代金600万円を自らの借金の返済に充当した。これらの事実について、AはCに何も知らせなかった。
6. Dは、【事実】4の売買契約を締結した時点で、Aが遊興を原因として多額の借金を抱えており、Aが甲土地の代金600万円をAの借金の返済に充当するつもりであることを知っていた。
7. Cは令和5年(2023年)3月に専門学校を卒業して同年4月から就職し、令和6年(2024年)9月1日にはEと婚姻し、新婚旅行に出発したが、同月5日、Cは、新婚旅行先で海水浴中の事故により死亡した。Cの相続人はA及びEの2人である。
8. 令和6年9月20日、Dは、甲土地を売却しようと考え、その媒介を仲介業者に依頼した。その頃、Fは、購読している新聞の折り込みチラシに甲土地が紹介されていたことから仲介業者に問い合わせ、現地を見て甲土地を気に入り、Dと面識はなかったものの、Dから甲土地を購入することを決めた。
9. 令和6年9月30日、Dは、Fとの間で、甲土地の売買契約を締結し、FはDに甲土地の代金として750万円を支払い、DからFへの甲土地の所有権移転登記がされた。
10. その後、Fは、甲土地上に乙建物を建築し、令和6年12月1日から乙建物での居住を開始した。
11. 令和6年12月5日、Eは、Aに対し、Cの遺産について尋ねたが、AはEの質問を無

視した。その後も、AはEからの電話の着信や郵便物の受領を全て無視している。

12. 令和6年12月15日、Eは、Cの遺産に関する自らの疑問を解消したいと考え、弁護士に調査を依頼した。

13. 令和7年1月25日、Eは、【事実】12の調査を依頼した弁護士の報告により、【事実】2から10までを知った。

〔設問〕 【事実】1から13までを前提として、以下の問いに答えなさい。

Eは、Fに対し、甲土地及び乙建物に関しどのような請求をすることができるか。Eの請求の根拠及び内容を説明し、その請求の当否を論じなさい。なお、EのFに対する金銭請求については、検討を要しない。

以 上

2025年1月26日実施 講師：弁護士 大和田準



表

試験科目	受験番号	フリガナ	
民法総則		氏名	

明治大学法曹会 司法試験予備試験答案練習会
 講師：弁護士 大和田準
 質問：j.owada@babasawada.com
 2025.1.26実施 予備試験答案練習会 民法総則
 予備試験民法総則

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44



裏

(注意事項)

1 答案用紙の種類

本答案用紙は、憲法の答案用紙です。

行政法の答案を本用紙に記載して提出した場合には、試験時間に申し出があった場合を除き、零点となりますので、注意してください。

なお、試験時間中に答案用紙の取違えに気付いた場合には、試験監督員の指示に従ってください。(試験時間終了後の答案用紙の取違えの申出は一切応じません。)

2 答案用紙の取扱い

答案用紙の取替え、追加配布はしませんので、汚したり曲げたりしないでください。

3 答案作成上の注意

- (1) 答案は横書きとし、解答欄の枠内に頁数に従って書き進めてください。なお、解答欄の枠外(着色部分及びその外側の余白部分)に記載した場合には、当該部分は採点されません。
 - (2) 答案は、黒インクのボールペン又は万年筆(ただし、インクがプラスチック製消しゴム等で消せないものに限り。)で記載することとし、これ以外で記載した場合には、無効答案として零点となります。
 - (3) 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で1行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。
 - (4) 答案用紙の表裏を書き進めて答案を作成した場合には、表が白紙の時には「裏から記載」、それ以外の時は「裏から記載」とだけ、試験期間中に表の解答欄に記載してください。(試験時間終了後に記載することは認めません。)
 - (5) 答案用紙の※印の欄には何も記載しないでください。
- 4 その他
解答欄に受験者の氏名又は特定人の答案であると判断される記載のある答案は無効答案として零点となります。

明治大学法曹会 司法試験予備試験答案練習会

講師：弁護士 大和田準

質問：j.owada@babasawada.com

2025.1.26実施 予備試験答案練習会 民法総則

予備試験民法総則

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88